

平成 27 年度第 1 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「春を感じる水路の魚たち ～産卵期の魚の観察～」を実施しました。

開催日時：平成 27 年 4 月 18 日（土）10 時 00 分から 14 時 00 分まで

開催場所：かすみがうら市戸崎，霞ヶ浦湖岸川尻ウェットランド付近の農業水路

参加者：28 名

平成 27 年度最初の霞ヶ浦自然観察会は「農業水路での産卵期の魚の観察」。寒い季節が過ぎ、春を迎えて、コイやフナのなかまはこの季節に産卵を迎えます。

水路や水田の浅い水域は水温も上がり、また大型魚に捕食されることも少なく、稚魚のエサとなるプランクトンが多く発生するため、これらの魚たちはこの時期にこのような場所に産卵とためにやってきます。

前日まで続いた雨模様がうそのように、当日は絶好の観察日和になりました。場所は霞ヶ浦湖岸そばの農業水路。早速みなさんで、魚の採取を始めました。

はじめはなかなか魚を捕まえられなかった子どもたちも、魚のいる場所（草が水面を覆っている影や水路壁の際など）がわかると、次々と魚を捕まえられるようになり、水槽の中にはいろいろな魚たちが集まりました。この細い水路に多様な生物がはぐくまれていることが分かりました。

青空の下で昼食を取り、さらに採取を続けました。最終的に 10 種類の魚と水生昆虫やエビの仲間などを見つけました。

最後に参加者全員で採取した魚を観察しました。大きなコイやフナがこの細くて浅い水路にいることにみなさん驚きの様子でした。またタイリクバラタナゴのオスはきれいな婚姻色を見せ、またメスは貝に卵を産み付けるための産卵管を伸ばしている個体もいました。最近では見かけることの少なくなった在来タナゴのアカヒレタビラも見つかりました。また水没した植物にはたくさんの魚の卵が産み付けられていました。

霞ヶ浦やその水路は多くの生き物をはぐくむ大切な場所であり、わたしたちの大切な財産であることを実感した一日でした。

参加者の皆さん、パートナーの皆さん、当日はお疲れ様でした。

環境活動推進課 福井正人

今回、観察した生き物は次の通り。

魚 類：ギンブナ，キンブナ，ゲンゴロウブナ，タイリクバラタナゴ，アカヒレタビラ，モツゴ，ヨシノボリ，コイ，ドジョウ，ツチフキ

甲殻類：スジエビ，アメリカザリガニ

水生昆虫：コオイムシ，ヤゴ

貝類：イシガイ科二枚貝（ドブガイ），タニシの仲間



採取開始の号令が待ち遠しい。



採取開始！“落ちないでね”



底にたまった泥と格闘中。



こちらはどうかろう？



この小さな水路にこんな大きなコイが！



水路で捕まえた魚を観察中。

